

平成 25 年度 第 3 回中部防災技術専門委員会

議事概要

1. 日 時 平成 25 年 10 月 18 日 (金) 9:30~11:40

2. 場 所 中部地方整備局 4 階大会議室

3. 出席者

[委員] ◎ やしま あつし 八嶋 厚 岐阜大学 理事・副学長
さかい としのり 酒井 俊典 三重大学生物資源学研究科共生環境学専攻 教授
なかの まさき 中野 正樹 名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 教授
まえだ けんいち 前田 健一 名古屋工業大学都市社会工学(環境都市系プログラム) 教授
こばやし ともなお 小林 智尚 岐阜大学大学院工学研究科環境エネルギーシステム専攻 教授
たなべ きんや 田邊 謹也 一般社団法人日本応用地質学会
うめもと かずひろ 梅本 和裕 一般社団法人日本応用地質学会

※敬称略、◎は委員長

4. 議 事

- 防災面の効果が特に大きい事業について
- 国道 4 1 号飛騨市神岡町船津落石災害について

5. 結 論

- 防災面の効果が特に大きい事業について
 - ・ 防災面の効果が特に大きい事業(桜沢改良、下原改良、大和改良)は、防災面における事業の必要性・緊急性があると確認した。
 - ・ 対策内容とコストは現在の事業計画案が妥当だと判断出来る。
- 国道 4 1 号飛騨市神岡町船津落石災害について
 - ・ 国道 4 1 号飛騨市神岡町船津落石災害箇所の中・長期対策としては、案②のトンネル案が妥当である。

<委員からの主な意見>

○防災面の効果が特に大きい事業について

共通事項

- ・ 要対策箇所とカルテ箇所は、確率論の差だけであり、被災時の規模や必要性に差はない。
- ・ 現道対策においては、課題箇所に対する一般的な対策だけでは完了することは困難であるが、最低限のコストは計上されていると判断出来る。
- ・ 適切な維持管理が必要であり、そのコストの計上が必要。

以上のことから

- ① 対策案の技術的優位性の比較に 50 年分の維持管理費を計上する。
- ② 防災点検外の災害リスクを貨幣換算することは出来ないの、災害リスクが残存することを法面対策案においては検討する。
- ・ 防災課題箇所の落石状況の把握については、年度別の量をデータとして残す。

国道19号桜沢改良について

- ・防災点検箇所（A：要対策箇所）は、現地調査の際に一段上がったところにあったストーンガードは単管で継ぎ足しがされており、斜面周辺にも小さな転石が点在していたことから、小石を含めすべての発生源対策をするのは困難であり法面防災対策として洞門とすることは妥当である。

国道41号下原改良

- ・法面对策案では対策しても災害リスクは残るので、残る災害リスクを明確にし、維持管理費を含めてもトンネル案が確実に安心だという評価をすれば良いと思う。

国道156号大和改良について

- ・想定災害にある山腹崩壊については、防災点検の対象にもなっていないので、想定される災害から除くこと。
- ・防災点検箇所の落石に関して、現状がすべて浮石になっているが、写真を見る限り転石も存在しているので、再度整理すること。

○国道41号飛騨市神岡町船津落石災害について

- ・今回の対策対象範囲以外についても、船津地区のような対策必要箇所があるため、富山県境に向けて長期対策を検討すること。
- ・案②トンネル案の整備が完了するまでの期間の斜面对策については、安定状態1に対しては行うが、安定状態2、3の対策については、今後検討していく。